

第2回 清瀬市「夢空間」保存活用検討委員会 会議録

1 開催日時

令和6年12月23日（月）午後3時～午後4時40分

2 場所

清瀬市役所3階 会見室

3 会議内容

（1）開会

（2）挨拶

各委員が挨拶を行った。

（3）資料確認

事務局から配布資料について説明を行った。

《以下委員からの意見》

- ・6者のサウンディング型市場調査簡易提案書の共通点は、食堂車である夢空間を飲食の場として活用すること。カフェや飲食提供を常時行うかどうか、また、公園と一体で使用するかどうかで意見が分かれてくる。
- ・活用について、カフェの案がよく出ているが、カフェにとらわれず自由に考えてみるのが望ましい。そのうえでどのアイデアが一番良いか考えていく。
- ・活用方法を絞らずに考えていくのが良いと思った。小規模なウェディングや金婚式での活用もできるのではないかと。車両の中はそこまで広くはないので一回における利用人数は限られることから、家族単位のメモリーパーティー（例：還暦のお祝い等）も良いと思う。
- ・テーブルだけではなく什器の設置が可能かどうかにもよるが、多目的ホールのような使い方ができるようになると良いと思う（貸し出しを行う公共施設と同じように使用する）。また、清瀬にはちょうどいい小さなホールがないので、コンサートを開催するのも良いと思う。
- ・カフェや食堂車だけの運営だと採算が合わないのが公園全体で任せてほしい旨、多くの提案書に記載されている。そのため、公園全体を運営する指定管理者がいて、その中で車両を貸し出し用のスペースにするという方法も考えられる。
- ・まずは夢空間車両の「保存」が第一であり、そのうえで夢空間の価値を活用した方法を考えていくことが大事である。保存することが後回しになっ

てしまうと、車両の歴史的価値が損なわれてしまう恐れがあるので、保存についてしっかり話し合っていきたい。

- ・夢空間自体をどのように市民や市外の鉄道ファンに知ってもらうのか、という点についても話し合っていきたい。
- ・保存については、市で責任をもって計画を立てて取り組まないといけないと思う。指定管理者が変わるごとに保存方法が変わってしまうことはよろしくない。指定管理者に任せきりではなく、保存の計画や方針は市が主導しないといけないと思う。仕様書等に具体的に記載する等の方策が考えられる。
- ・委員会においては、まず、夢空間車両の保存を大事に考えなければならないことが明確になった。

(4) 意見交換

ア「夢空間」車両の保存方法について

《以下委員からの意見》

- ・夢空間車両の保存について、①物理的な保存 ②市民への価値の伝達 の二つの側面があると思う。①はハード面のテクニカルなことなので専門家に任せるので良いと思う。②に関しては、まず市民に、夢空間のことを知ってもらうことが大事である。また、車両の搬出入や修復のタイミング等で、夢空間についてリアルタイムで知ってもらえれば良いのではないか。
- ・上記意見のとおり、保存は物理的にもものを残すだけでなく、その価値を市民の皆様と共有することである。博物館や美術館においても、保存しているものの価値について、観覧者に対して絶えず発信していくことが重要であり、そこまでして初めて意味がある。夢空間車両についても、修復して設置しておくだけでなく、「この車両はどのようなものなのか」「清瀬で保存していくことにどのような意味があるのか」を考え、それを情報発信していく必要があると思う。
- ・SNS を活用した情報発信はもちろん、恒久的な施設を整えておくことも意味があると思う。
- ・車両が搬入されるスケジュールをイベントとして見せることは良いと思うが、修復のプロセスを見せても面白くないのではないか。
- ・時代によって修復や塗装の違いがあり、それを見るのは楽しいことだと思っている。壊れているものを再生していくプロセスを見せて、絶えず情報を発信していくことによって歴史を作ることができると思う。その時の保存方法を後世に残すことも大事である。
- ・清瀬と夢空間の繋がり（地元感や歴史感）について、縁もゆかりもない場所で保存することの意味はどのようなものなのか。車両の搬出入については、安全性の面で公開するのが難しいのであれば、記録映像を録って情報発信をして盛り上げることが良いと思う。修復のプロセスを見せることに

については、清瀬での夢空間の歴史を作っていくことにも繋がる。リアルタイムでなくても記録映像として後日活用することも含め、やってみても良いと思う。

- ・夢空間は日本の鉄道史において非常に珍しい車両であるので、清瀬と縁がなくても、その価値について意味は分かってもらえると思う。
- ・地元に関係がない＝価値がないという考え方ではなく、普遍的な価値を持つものの保存を清瀬で担っていくという決意を市民の皆様に共感いただくことが重要だと思う。例として、イギリスのヨークにある鉄道博物館では初代の0系新幹線が保存されている。これはイギリスに縁はないが、鉄道の博物館である以上保存していくことは重要だと認めたからである。西洋美術などの美術品も同様である。この地で保存していくことに普遍的な価値があるという考え方によるものだと思う。
- ・夢空間についても、鉄道史上、非常に価値のあるものであり、今回清瀬が保存していくという重要な使命を担うということを市民の皆様に理解してもらい、保存していくことが大事である。施設ができあがった後も継続して発信していく必要がある。
- ・修復のプロセスは見せて損するものではない。見せ方については安全上の課題等をクリアにしたうえで進めていけば良い。プロセスの共有により、夢空間車両への愛着や価値の共有も図れると思う。
- ・市で保存していくという活動を通して、市民の皆様の記憶に積み重なり、何十年も蓄積されていくことで、清瀬における夢空間の価値が創出されていくと思う。
- ・保存してきた過程を何年にもわたって共有していくことで、夢空間が清瀬の一部になっていくことが期待できる。保存の方向性として、このようなことも念頭に置くべきだと感じた。
- ・展示物の修復について、細かい内容を記録することが大変重要である。例えば、修復に使用したペンキは、何十年経っても同じものが購入できるか等、後世の修復担当者が考える際に、材料となる情報の記録を残すことを車両と併せて市が行うべきである。元々オリジナルの部分なのか、市に持ってきてから修復で付け加えたものなのか（その時にどこのメーカーを使用したか）等、記録が必要である。
- ・記録を残しておく期間や記録を残す内容について明確に決めておかないといけない。指定管理者が独自で修復してしまうようなことも起きる可能性がある。修復の詳細な記録を資料として残すことで、後世で修復を担う人たちが必要に応じて振り返ることができる体制整備が必要である。その記録をどこに保存するかは、今後検討していけば良いと思う（図書館、市役所、車両内等）。
- ・修復の記録をすることは、市民への共感を得ることだけでなく、文物を保存していく学術的な観点からも非常に重要なことである。市役所の公文書

の保管体制だと一定期間が経った後、廃棄されてしまう可能性があるのでは、然るべきところに歴史的公文書として移管していただく必要がある。

- ・ペイントの素材は非常に重要である（過去に使用できても現在の基準に照らして使用できない場合もある）。アスベストの除去も今回やると思うが、オリジナルの姿ではない部分についてもしっかりと資料として記録を残しておくことは重要なことであり、このようなことを市民へ理解してもらうことも意味があると思う。

《以下委員からの質問と事務局の回答》

- ・車両搬入の周知等、市で予定していることを知りたい。
⇒搬出入は、安全確保の観点から日時の周知はしない予定である。修復については、市 HP や SNS で写真を公開する予定である。
- ・修復途中の見学はできるのか。
⇒工事の修復の様子を見学できる権利をクラウドファンディングの返礼品として設定した。現時点では、それ以外に見学の間を設ける予定はない。

～保存において重要なこと～

- ・ハードウェアを良好な状態で保つこと
- ・夢空間車両の価値を市民へ共有し理解してもらうこと
- ・清瀬における夢空間の歴史を作ることができる体制にしていくこと
- ・修復のプロセスを記録していくこと
(市民への PR や文物の保存にあたっての学術的な意味として)

イ「夢空間」車両の活用方法について

《以下委員からの意見》

- ・都内で鉄道車両を設置している公園があるので、保存活動をしている他の自治体や団体と連携して、東京都全域で保存車両のスタンプラリーを実施することもできると思う（景品等も用意できると良い）。
- ・横のつながりがあると、修復等の情報を収集することができるので有効である。日本鉄道保存協会以外のところでも横のつながりを確保していくことは重要である。宮城県の事例では、鉄道だけでなく市内の博物館等と連携してスタンプラリーを実施して缶バッジ等の景品を配っており、効果がある様子。ただ、どこがリードして進めるかについては、課題となっている。
- ・スタンプラリーや鉄印帳は面白いと思う。夢空間のキャラクターをどのように出していくか考えていけたらよい。
- ・普遍的な価値について、夢空間の絶対的な価値をどこに見出すのか、どのようにキャラクターを立てるかによって、一般的なカフェ以外の活用方法もアイデアが出てくるのではないかと思う。

- ・夢空間車両の価値について整理する場合は必要だが、時間を要するため、細かく詰めていくのは次回にしたい。普遍的な価値がある点については合意済みの認識。
- ・価値は決めきってしまうものではないと思うので、保存に携わる方々の中で価値を見直していく仕掛けが必要だと思う。そのため、学芸的な立場で保存に携わっていく人を施設に配置することが望ましいと思う。小さい博物館のようなギャラリーがあってもよい。
- ・第1回委員会で話題に出た駅弁に関連して、「寝台特急テールマーク弁当」のランチボックスを参考までに持参した。蓋にテールマークがデザインされており、列車等の説明書きの紙が入っている。メニューはゆかりのあるもの。夢空間でもやる場合は、昔出していたメニューや清瀬ならではの食材でも良い。また、寄附をしたことへの承認に関する話題もあったので、三陸鉄道のふるさと納税で寄附をした際にもらったオーナー証を持参した。このような企画は、ファンの心に十分届く良いアイデアの一つだと思うので紹介させていただいた。
- ・夢空間の商品開発をする際に、自由に使用できるイラストがあると良い。清瀬のファンを増やしていくという面では、無償で提供するということも考えられる。有償または無償で提供する部分を使い分けて、写真だけではなく副次的なものがあるとよい。
- ・図書館が併設されるので、鉄道に関する書籍を集めたコーナーがあると良い。子ども向けに関しては、読み聞かせ等で大人と一緒に見学できると、目を離す心配もなくて良いと思う。
- ・せっかく図書館があるので、鉄道について学びが深まるようなコーナーがあると良いと感じた。
- ・デザインについては、JRがもっている商標との兼ね合いもあると思うが、うまく活用していけたら良い。車両デザインはJRが権利を持っており鉄道模型を作る際にも許諾が必要で費用もかかるのかもしれないが、市のほうで先方と相談をしてクリアにしていけたらと思う。
- ・清瀬は銚子電鉄と提携していると思うが、販売できるような商品の開発もできるか考えていけたら良い。
- ・市民の皆様からも、「ここと提携してはどうか」「清瀬の食材をこんな風に使ってはどうか」等、様々な意見があると思う。今後、市民の提案を取り入れていく仕組みを活用のプロセスに組み込めると共感も得られて良いと感じた。指定管理の中で仕様書に書かれたことだけをやるのではなく、定期的に事業者と話し合いを行い、また、そこに市民の意見を取り入れる仕組みを作ることで、面白いものができていくと思う。

《以下委員からの質問と事務局の回答》

- ・保存に係る費用のやりくりは、事業者なのか市役所なのか。

⇒検討中のため、その点についてもご意見いただければと思う。

- ・商標やロゴの権利関係について、契約上自由に使用していいのか、または業者に使用させてもいいのか、アレンジしていいものなのか等、どこまで認められるのかを確認して次回教えていただきたい。

⇒既に車両のデザインについては JR が著作権をもっているので、今後何か作成する際には許可が必要。夢空間という文字の商標登録は、市が行っているため使用してよいが、それにプラスアルファでデザインもとなると JR の許可が必要。販売するのであれば、販売する額に沿った手数料が必要。

～委員から市への依頼～

- ・例えば、夢空間の車両を連想させるようなゆるキャラを作った時に、JR にロイヤリティを払わないといけないのか等、様々な境界線があると思うので、市のほうで調べておいてほしい。

夢空間という言葉は使用してよいとのことだが、例えば、夢空間の車内で使用されていた食器を複製して商売していいのか等も確認いただきたい。また、このような活動に対して市として金銭的な支援をするのか等、引き続き情報共有してほしい。

- ・現時点で決定していることや制約条件、検討すべきと認識していることがあれば、次回の委員会の冒頭で市のほうから提示してほしい。

～第 3 回の検討内容～

- ・夢空間車両の価値について
- ・夢空間車両の価値を伝える仕掛けについて（例：ギャラリーや学芸員等）
- ・グッズやカフェ等の利用を検討していく際の制約条件について

（５）その他

事務局から次回日程について説明をして閉会となった。

以上